

Where there is no Vision, the people perish

2012年2月

北九州信徒聖書学校

第113号

月刊

על-פלי מים

流れのほとり

連絡先 〒807-8691 北九州市八幡南郵便局私書箱 26 号 本部 TEL&FAX 093(692)8592
所在地 〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町 2-3-13 北九州市 YMCA 内
HP <http://bible-school.name/> E-Mail hope_to_tomorrow.y@san.bbq.jp

わたしは常に主をわたしの前に

理事長 山口 晶久

「ガンバレ東北、ガンバレ日本！」と書かれた荷を運ぶトラックを見ました。東日本震災復興の願いを込めた言葉です。昨年3月、三陸沖震源による国内観測史上最大M9.0の地震が襲い、津波、火災、福島原発事故と未曾有の惨禍に至りました。行方不明1万9千人。本当に痛ましい出来事です。いちはやい復興を誰しも願います。

平成23年3月22日、宮城県の階上中学校第64回卒業式に梶原裕太君は「・・・自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくてたまりません。・・・命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。・・・しかし、苦境にあっても天を恨まず、運命に耐えて、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。・・・」と答辞を述べました。実に気高く重い内容です。この度の惨禍に、TVや新聞は震災後に外国からの驚きを込めて日本を評することばを伝えました。困難にあっても志を貫く「不屈の

精神」、自分の感情や欲望をおさえる心である「自制心」、むすび連ねる「連帯感」、そして物事に恐れない気概である「勇気」、に富む国民であると。改めて日本という国の人々の強さと気高さに教えられた気がするとありました。この度のような惨禍を身近に感じますときに、私たちの信仰生涯をどのように歩むべきであるかと改めて考えさせられます。

さて、詩篇16篇8節に、「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない。」とあります。この詩人の確信に満ちた言葉が心に留まります。では、日々の生活で私たちは、私は、はたして主（神）の存在をどこに置いているのでしょうか。前なのか、後ろなのか、あるいは足の下か、上か、横に置くのか。考えてみたいものです。「一日一生」という名著を書いた、ちいしば牧師榎本保郎先生は、「後ろに置く」、自分のために神がある。だから、「私はこれをしたいのです。神さまどうぞさせてください」と呼びかける信仰にとどまってしまう。「上に置く」、それは神を奉ってしまうような置きかた。私たちの生活の真ん中に主を迎えようとしなさい。だから、信仰が言葉だけになり思いだけになってしまい、実際の生活とは少しも関わりがないということに

なってしまう。その反対に日常生活の中に埋没してしまうような「下に置く」信仰になってしまわないようにすることも大切である。

「横に置く」、これは相対的な世界の中で神さまを考えていく行き方で、これでは、いつまでもたっても信仰は与えられない。と書いています。

この詩人の言葉、口語訳聖書では「主をわたしの前に置く」と、共同訳聖書では「わたしは主に相對します」と訳されています。前に置く、相對するとは、主（神）が私を導くお方で、私が従うべき方であること認め歓迎する方であることを教えています。同時に、私たち自身が後ろに下がり従うということに他ならない。それ故に、「主がわたしの右にいますゆえ、動かされず、このゆえにわたしの心は楽しみ、魂は喜ぶ。そして身の安らかである」（8, 9節）と。主を前に置いて生きるとは、全てを託して信頼を持って生きることです。そして、「いのちの道をわたしに示される」（11節）とあるから、何と幸いなことか。主を前に置くとき、私たちの一步は前進の一步であり決して無意味な一步でないことを覚えたいと思います。

では、このようなことを教えられますと私たちがなすべきことは何なのでしょう。旧約聖書サムエル記上3章に少年サムエルのことが書かれています。彼は祭司エリのもとで主に仕えていました。ある日のこと、神の箱が安置された神殿に寝ていました。主（神）が、サムエルを呼びます。サムエルは「ここにいます」と答え、エリのもとへ行きます。すると祭司エリは「わたしは呼んでいない。もどってお休み」と伝えます。サムエルはもどりまた眠ります。その後、2度、3度と呼び声が聴こえるのでエリのもとに行きますが、祭司エリは呼んでいないという。そこで、エリはサムエルをお呼びになったのは、主（神）であることを悟り呼び声があったら、「主よ、

お話ください。僕は聞いております」と言いなさいと勧めます。3章10節に、「主は来てそこに立たれ・・・サムエルは呼ばれた・・・サムエルよ・・・どうぞお話下さい。僕は聞いています」とあります。その後、サムエルは成長します。そして、「主が彼と共におられ・・・主はみ言葉をもって・・・サムエルにご自身を示された」とあります。ここに聖書の言葉を聴くことの大切さを教えられます。

「一年の計は元旦あり」と言われます。計とは、「言」（ことば）に「十」（じゅう）、数をかざる意味が重ね並ぶ文字です。そこで、はかる、もくろむの意味に用いられます。一日のうちで、神のことばである、聖書を読み、祈り、神との交わる時間と場所を設けたいものです。主の前に計を立てるのです。牧師・神学者で高倉徳太郎という人がいました。彼は、「朝起きて最初に見るもの、聞くものは言うものは何か。それがイエスであれば、あなたは変わる。5分を聖書に、5分は祈り、5分間でノートに記入するのである。なくてはならないものは多くはない。一つだけである。それは主イエスとの交わりである」と言っています。互いに多忙な日々を迎えています。この年、早朝の祈りをもって、その歩みを始めたいものです。習慣は第二の天性、良き習慣を身につけたいものです。

（2012年1月6日礼拝奨励要約）

すでに味わい知っていてもさらに

「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。」（1ペテロ3章2～3節）

校長 野村 幸生

いろいろな方々に支えられて、本校の働きが続けられていることを、心から感謝いたします。さて、私たちは恵により、信仰によって救われて、教会に加えられました。救いをいただいて、さらに、私たちの信仰は成長していく必要があります。聖書のこの箇所では、そのことを、生まれたばかりの乳飲み子がおっぱいを欲しがることに譬えています。

生まれたばかりの乳飲み子が、健全に育っていくには、母親の柔らかく温かい胸に抱かれて、安心して、必要なだけのおっぱいを飲む必要があります。そのように、私たちも、主のいつくしみを深く味わいつつ、み言葉の乳である、聖書の学びをさらに続け、健全な成長に必要なものを求め続けたいものです。本校の働きが、この地域の方々の信仰の成長に、用いられるならば幸いに存じます。

(香住ヶ丘キリスト福音教会牧師)

狭き門より入れ！

教頭 廣川 和行

イエスに「主よ。救われる者は少ないのですか」問う人がいました。(ルカ伝8章22～30節)。イエスは「その通りだ」とも「いや違う」とも答えられずに、「ただ入るとしても、入れなくなる人が多い」と答えられました。

次に、イエスは質問する人に、あなた自身が「努力して狭い門から入りなさい」と勧められました。そうです。救いは、人事ではなく自分自身のことなのです。救われる人の少ない現実がありますが、私たちは、このイエスの言葉を覚えて新しい年も主イエスの証に励みましょう。

(日本キリスト兄弟団新下関教会牧師)

「見よ。わたしは新しい事をする。今、もう

それが起ころうとしている。」(イザヤ書43章19節)

教師 塩屋 弘

神さまと共に歩むことというのはいつまでも新鮮な驚きに満ちています。いくつになっても新しいことが待っています。それも、荒野に水が湧き出るような、常識を超えた恵です。主にあってまだまだ新しいことがたくさんあります。大いにチャレンジしたいものです。

(ウェスレアンホーリネス教団戸畑高峰教会牧師)

収穫は多いが、働き手が少ない

教師 原田 昌樹

昨年は、世界中で自然災害が目だった年でした。日本も東日本大震災によって多くの人命が失われ、改めて歴史のピリオドが打たれる時代に生かされていると実感させられました。

本校は、神の心を学びたい者と伝えたい者の情熱によって始められ、今日まで神の恵みによって守られてきました。それはきっと神が本校の卒業生及び在校生をこの時代の働き手と用意されているのだと信じています。

どうぞ、この新しい年を、精一杯福音をゆだねられている者として歩みましょう。

(北九州クリスチャンの集い牧師)

十字架のキリストにこだわって

「わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。・・召された者には、

神の力、神の知恵・」(第一コリント1章2
3、24節)

教師 上島 信弥

新しい年を迎え、神さまのお恵みの中に、
こうして主にある働きを許されていますこと
を感謝申し上げます。どの時代、どの世代に
も問われる宣教の戦い、その中で重要なのは
あくまで十字架のキリストを伝えるというこ
とです。知識は重要で大きな助けになる。し
かし、人を救うるのはあくまで神の福音を
語る、イエス様です。

しかも、あの十字架の他には無いことを教
えられます。人は愚かというかも知れませ
ん、十字架の痛みを見て恐れを感じる人も
いるかも知れません。しかし、人を救うるの
はこの福音をおいて他にない、何を足すこ
とも引くこともできないものということを再認
識させられました。改めて、十字架のキリ
ストにこだわって、そのためにこそ、最善の備
えとして学びを深めていきたい。新しい年も
福音の宣教に励んでまいりたいと思います。

(野の花クリスチャンチャーチ牧師)

2011年度卒業式のご案内

拝啓 向春の候、主にある皆さまにおかれ
ましては益々ご清栄のことお慶び申し上げま
す。さて、この度下記のように2011年度
の卒業式を挙りますので、ご出席賜りますよ
う、謹んでご案内申し上げます。

敬具

記

日時 2012年3月23日(金)午後7時
場所 財団法人 北九州YMCA 4F

北九州小倉北区鍛冶町2-3-13

2012年2月

北九州信徒聖書学校

理事長 山口 晶久

校長 野村 幸生

2011年度

北九州信徒聖書学校同窓会開催

日時 2012年3月23日(金)午後8時

場所 財団法人北九州YMCA 4F

北九州小倉北区鍛冶町2-3-13

- 議題
1. 2011年度活動報告及び
2012年度活動計画承認
 2. 会計報告
 3. その他

同窓会後に学校関係者、卒業生、在校生、
同窓生が集まり親睦会が開催されます。

編集後記

立春を迎えた。万花に先
駆けて梅の花が咲く頃。暦
の上では節分を境に翌日から春になる。昔か
ら季節の変わり目は鬼(邪気や疫病)が現れる
と考えられ、節分には柊(ひいらぎ)の枝に
イワシの頭を刺して魔除けとする風習が生れ
たという。

日本は四季の変化に富む国である。そこで
育まれた季節感は言葉を大切する文化を創っ
た。そのためか季語もって手紙の書き初めを
飾り、自身の感性をさらに研ぎ澄ませる習慣
を学んだ。そして四季の調和の中で生きるす
べを身に付けたように思える。

いよいよ花開く春三月、卒業式のときを迎
える。本校で学ばれた方々が、遣わされた諸
教会で福音宣教の一躍を負う証を立てていた
だきたいと願う。皆さまの本校に寄せるご加
禱とご支援に深い感謝を申し上げます。